

三菱UFJ リートオープン (毎月決算型)

追加型投信／国内／不動産投信 **特化型**

作成対象期間：2019年10月11日～2020年4月10日

第 109 期 決算日：2019年11月11日 第 112 期 決算日：2020年2月10日

第 110 期 決算日：2019年12月10日 第 113 期 決算日：2020年3月10日

第 111 期 決算日：2020年1月10日 第 114 期 決算日：2020年4月10日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、三菱UFJ リートマザーファンド2004受益証券を主要投資対象とし、わが国の金融商品取引所に上場している（上場予定を含みます。）不動産投資信託証券への投資を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とし、信託財産の中長期的な成長をめざします。ここに運用状況をご報告申し上げます。
当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第114期末 (2020年4月10日)

基準価額 13,985円

純資産総額 4,136百万円

第109期～第114期

騰落率 -27.9%

分配金合計(*) 1,800円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

MUFG 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  0120-151034

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

ファンドマネージャーのコメント

当作成期の運用で主眼においたポイントをご説明させていただきます。

■投資環境

- ・当作成期首から2020年2月中旬にかけての国内REIT市況は、米中間をはじめとする世界的な貿易摩擦問題や、新型肺炎感染拡大の状況に世界の株式市場が左右される展開となりましたが、低金利環境下において相対的に高い配当利回りが期待できることなどが評価されて底堅く推移しました。しかし2月下旬以降は、新型肺炎の世界的な感染拡大懸念を受けて大幅に下落する展開となりました。

■ポートフォリオ構築についての考え方

- ・当作成期においては、米中間をはじめとする世界的な貿易摩擦問題や、その行方に伴って変化する国内外の景気見通しや金利動向、そして2020年に入ってから新型肺炎の感染拡大の状況に世界の株式市場が左右される展開となりました。一方、2月中旬頃までの国内REIT市況はこうした外部環境に大きな影響を受けることなく、オフィス・ビルの空室率低下や賃料上昇など実物不動産市場が堅調に推移していることや、低金利環境下において相対的に高い配当利回りが期待できることなどが評価されて底堅く推移しました。しかし、その後は、新型肺炎の感染拡大などから、それまでの想定よりも長期にわたる経済活動の世界的な停滞が意識されて投資家のリスク回避姿勢が一段と強まり、当作成期末にかけて国内REIT市況も株式市場と同様に大幅な調整を余儀なくされる展開となりました。
- ・こうした状況下、ファンドの運用にあたっては、配当利回りや投資口価格純資産倍率（PBR）などのバリュエーション、また物件ポートフォリオのクオリティなどに着目し、安定した分配金が見込め相対的に割安と考えられる銘柄への投資ウェイトを高めた運用を行ってまいりました。銘柄選別におきましては、業績動向や各種バリュエーションのみならず、金融政策の動向や市場の流動性なども勘案しました。

■運用環境の見通しおよび今後の運用方針

- ・足下では、新型肺炎の感染拡大による先行き不透明感の高まりが投資家のリスク許容度低下を招く状況が継続していることもあり、当面は値動きの荒い展開を想定しています。一方で新型肺炎による影響の深刻度に応じた各国の財政・金融政策の発動による景気刺激も引き続き期待できることから、国内REIT市況も投資家のセンチメント改善を伴いつつ徐々に落ち着きを取り戻していくとみています。
- また、用途別にみると、テナント売上や利益に連動する変動賃料の減少などが想定され得るホテルや商業施設セクターに対しては、慎重に対応する必要もあると考えます。他方、新型肺炎の世界的な感染拡大が本格的な景気後退に繋がらなければ、その他の用途に属する各リートの実績への悪影響は今のところ限定的と考えます。
- ・このような市場環境に対する想定のもと、物流や小売など大口テナントの業界動向に加えて、スポンサーのサポート体制にも着目しつつ、リート各社に対する綿密な調査を継続することにより、個別銘柄ごとの業績動向や中長期的な成長性を慎重に見極めて選別投資を行い、パフォーマンスの向上に努めてまいります。



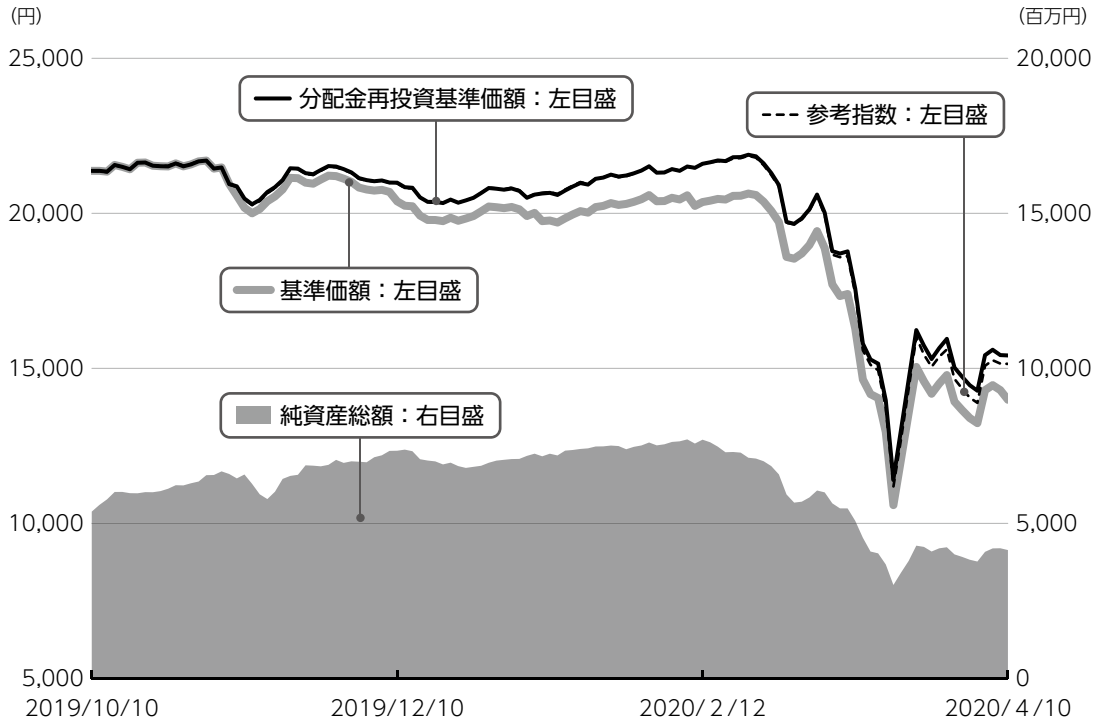
株式運用部
ファンドマネージャー
黒木 康之

運用経過

第109期～第114期：2019年10月11日～2020年4月10日

▶ 当作成期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第109期首	21,368円
第114期末	13,985円
既払分配金	1,800円
騰落率	-27.9%

（分配金再投資ベース）

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は当作成期首に比べ27.9%（分配金再投資ベース）の下落となりました。

基準価額の主な変動要因**上昇要因**

低金利環境下において相対的に高い配当利回りが期待できることなどが、一時的な基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大懸念などが、基準価額の下落要因となりました。

銘柄要因

上位4銘柄・・・三井不動産ロジスティクスパーク投資法人、日本ロジスティクスファンド投資法人、ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人、SOS i LA 物流リート投資法人

下位5銘柄・・・ユナイテッド・アーバン投資法人、オリックス不動産投資法人、日本リテールファンド投資法人、アクティビア・プロパティーズ投資法人、野村不動産マスターファンド投資法人

※参考指数は、東証REIT指数（配当込み）です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

※参考指数は、当作成期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

2019年10月11日～2020年4月10日

1万口当たりの費用明細

項目	第109期～第114期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	107	0.555	(a) 信託報酬 = 作成期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (作成期中の日数 ÷ 年間日数)
（投信会社）	(51)	(0.264)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(51)	(0.264)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(5)	(0.028)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	4	0.022	(b) 売買委託手数料 = 作成期中の売買委託手数料 ÷ 作成期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
（投資信託証券）	(4)	(0.022)	
(c) その他費用	0	0.002	(c) その他費用 = 作成期中のその他費用 ÷ 作成期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	111	0.579	

作成期中の平均基準価額は、19,251円です。

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

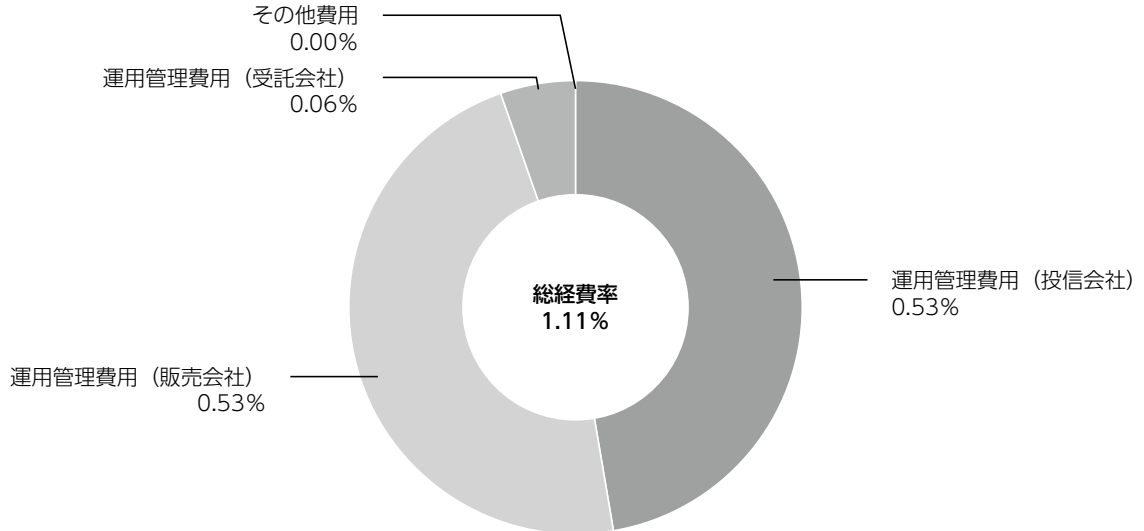
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

■ 総経費率

当作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成中の平均受益権口数に作成中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.11%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

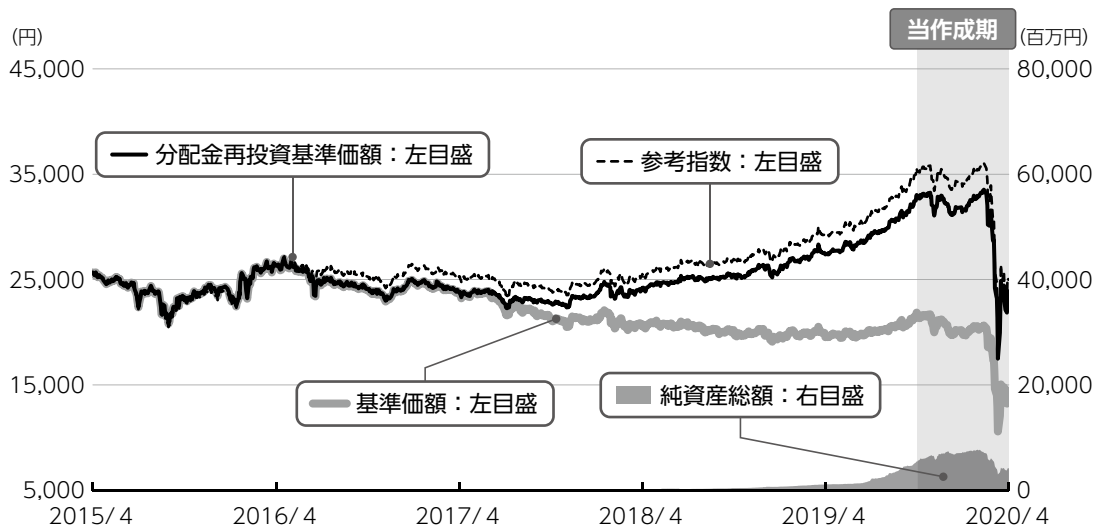
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2015年4月10日～2020年4月10日

最近5年間の基準価額等の推移について



※分配金再投資基準価額、参考指数は、2015年4月10日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2015/4/10 期初	2016/4/11 決算日	2017/4/10 決算日	2018/4/10 決算日	2019/4/10 決算日	2020/4/10 決算日
基準価額 (円)	25,674	26,291	23,688	20,660	19,536	13,985
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	55	50	3,305	3,600	3,600
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	2.6	-9.7	1.8	13.1	-13.8
参考指数騰落率 (%)	—	2.4	-4.0	1.1	14.0	-14.1
純資産総額 (百万円)	25	26	23	81	1,088	4,136

※ファンド年間騰落率は、参考指数年間騰落率と比較するため、収益分配金（税込み）を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

参考指数は、東証REIT指数（配当込み）です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

第109期～第114期：2019年10月11日～2020年4月10日

投資環境について

国内REIT市況

国内REIT市況は下落しました。

当作成期首から2020年2月中旬にかけては、米中間をはじめとする世界的な貿易摩擦問題や、新型肺炎感染拡大の状況に世界の株式市場が左右される展開となり

ましたが、低金利環境下において相対的に高い配当利回りが期待できることなどが評価されて底堅く推移しました。しかし2月下旬以降は、新型肺炎の世界的な感染拡大懸念を受けて大幅に下落する展開となりました。

当該投資信託のポートフォリオについて

三菱UFJリートオープン（毎月決算型）

主として、三菱UFJリートマザーファンド2004受益証券を通じて、わが国の金融商品取引所に上場している（上場予定を含みます）不動産投資信託証券（J-REIT）に投資しています。J-REITの実質組入比率は高水準（90%以上）を維持しました。

組入銘柄数は50～54銘柄程度で推移させました。

主な売買動向については、物流施設や住宅をポートフォリオの中心にしており業績安定性が相対的に高い大和ハウスリート投資法人のウェイトを引き上げたことや、業績動向と各種バリュエーションの相対的な割安度を勘案してフロンティア不動産投資法人のウェイトを引き下げたことなどが挙げられます。

三菱UFJリートマザーファンド2004

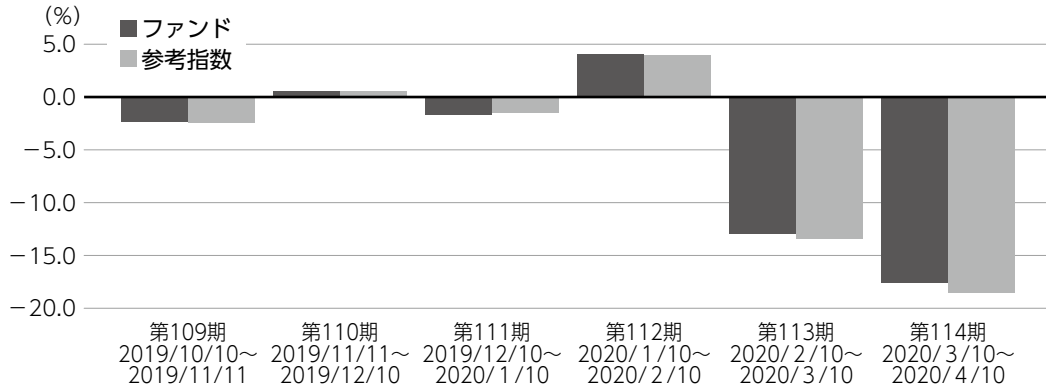
銘柄選定およびポートフォリオの構築は主に、定性的評価・定量的評価を経て行っています。

定性的評価については、事業内容および財務内容などの分析を中心に行い、定量的評価においては、キャッシュフロー、配当利回り、PBRなどの分析を行いました。

第109期～第114期：2019/10/11～2020/4/10

当該投資信託のベンチマークとの差異について

基準価額と参考指数の対比（騰落率）



※ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。上記のグラフは当ファンド（ベビーファンド）の基準価額と参考指数の騰落率との対比です。

参考指数は東証REIT指数（配当込み）です。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第109期 2019年10月11日~ 2019年11月11日	第110期 2019年11月12日~ 2019年12月10日	第111期 2019年12月11日~ 2020年1月10日	第112期 2020年1月11日~ 2020年2月10日	第113期 2020年2月11日~ 2020年3月10日	第114期 2020年3月11日~ 2020年4月10日
当期分配金 (対基準価額比率)	300 (1.438%)	300 (1.450%)	300 (1.497%)	300 (1.461%)	300 (1.702%)	300 (2.100%)
当期の収益	16	35	54	189	87	23
当期の収益以外	283	264	246	110	212	277
翌期繰越分配対象額	14,342	14,093	13,856	13,752	13,546	13,274

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 （作成対象期間末での見解です。）

▶三菱UFJ Jリートオープン（毎月決算型）

三菱UFJ Jリートマザーファンド2004受益証券の組入比率は、運用の基本方針にしたがい、引き続き高水準を維持する方針です。

▶三菱UFJ Jリートマザーファンド2004

REITの組入比率については、運用の基本方針にしたがい、引き続き高水準（90%以上）を維持する方針です。

配当利回りやPBR等のバリュエーション、また物件ポートフォリオのクオリティ等に着眼し、安定した分配金が見込め相対的に割安と思われる銘柄への投資ウェイトを高めた運用を行います。

今後の国内REIT市況は、新型肺炎の感染拡大による先行き不透明感の高まりが投資家のリスク許容度低下を招く状況が継続していることもあり、当面は値動きの荒い展開を想定しています。一方で新型肺炎による影響の深刻度に応じた各国の財政・金融政策の発動による景気刺激も引き続き期待できることから、中期的には投資家のセンチメント改善を伴いつつ徐々に落ち着きを取り戻していくとみています。このような市場環境に対する想定のもと、物流や小売など大口テナ

ントの業界動向に加えて、スポンサーのサポート体制にも着目しつつ、REIT各社に対する綿密な調査を継続することにより、個別銘柄ごとの業績動向や中長期的な成長性を慎重に見極めて選別投資を行い、パフォーマンスの向上に努めてまいります。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

▶ その他

- ・該当事項はありません。

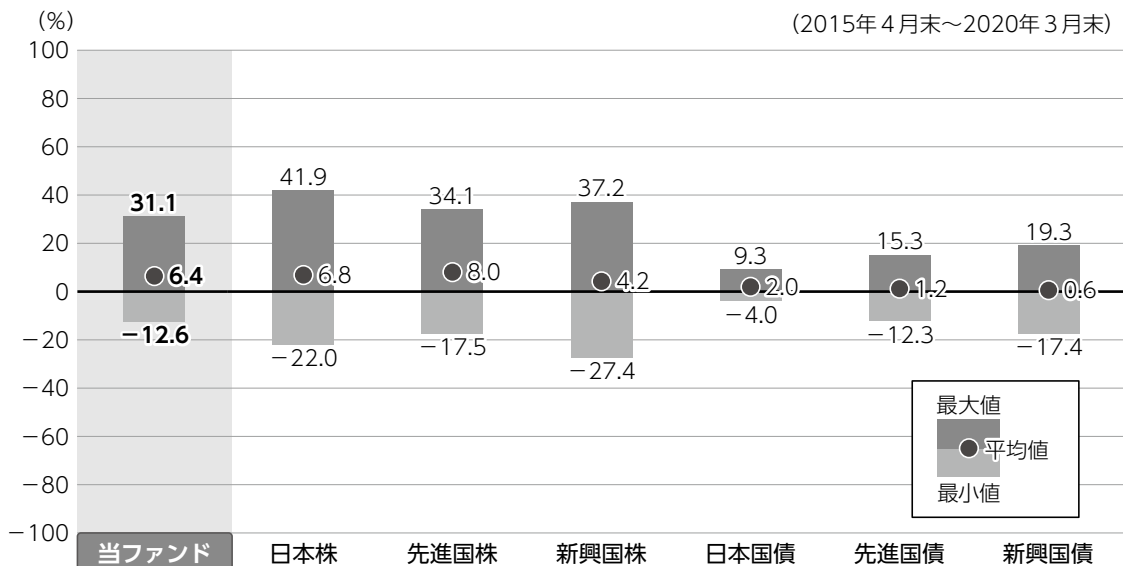
*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ（<https://www.am.mufig.jp/>）にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／不動産投信 特化型
信託期間	2022年4月8日まで（2010年10月25日設定）
運用方針	主として、三菱UFJリートマザーファンド2004受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引所に上場している（上場予定を含みます。）不動産投資信託証券への分散投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目標として運用を行います。
主要投資対象	<p>■当ファンド 三菱UFJリートマザーファンド2004受益証券を主要投資対象とします。</p> <p>■三菱UFJリートマザーファンド2004 わが国の金融商品取引所に上場している（上場予定を含みます。）不動産投資信託証券を主要投資対象とします。</p>
運用方法	わが国の不動産投資信託証券（J-REIT）を実質的な主要投資対象とし、分散投資を行うことにより、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

- ◆ファンドは特化型運用を行います。一般社団法人投資信託協会は信用リスク集中回避を目的とした投資制限（分散投資規制）を設けており、投資対象に支配的な銘柄（寄与度*が10%を超える又は超える可能性の高い銘柄）が存在し、又は存在することとなる可能性が高いものを、特化型としています。
 - ◆ファンドは、わが国の金融商品取引所に上場している（上場予定を含みます。）不動産投資信託証券（J-REIT）に投資します。わが国の金融商品取引所に上場している不動産投資信託証券には、寄与度が10%を超える又は超える可能性の高い支配的な銘柄が存在するため、特定の銘柄への投資が集中することがあり、当該支配的な銘柄に経営破綻や経営・財務状況の悪化が生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。
- *寄与度とは、投資対象候補銘柄の時価総額の合計額における一発行体あたりの時価総額が占める比率または運用管理等に用いる指数における一発行体あたりの構成比率を指します。

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2015年4月から2020年3月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2020年4月10日現在

当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

ファンド名	第114期末 2020年4月10日
三菱UFJ リートマザーファンド2004	98.1%

※比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

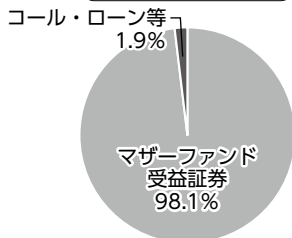
純資産等

項目	第109期末 2019年11月11日	第110期末 2019年12月10日	第111期末 2020年1月10日	第112期末 2020年2月10日	第113期末 2020年3月10日	第114期末 2020年4月10日
純資産総額 (円)	6,448,248,471	7,340,367,643	7,160,851,153	7,572,423,075	5,481,395,123	4,136,892,935
受益権口数 (口)	3,135,127,835	3,601,000,900	3,626,539,458	3,741,689,139	3,162,814,433	2,958,048,715
1万口当たり基準価額 (円)	20,568	20,384	19,746	20,238	17,331	13,985

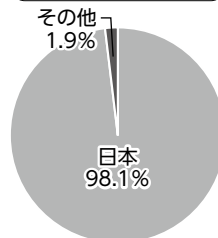
※当作成期間中(第109期～第114期)において追加設定元本は4,464,356,210円
同解約元本は 4,022,645,059円です。

種別構成等

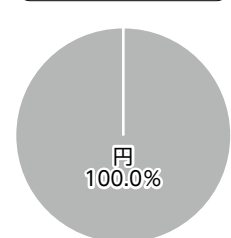
資産別配分



国別配分



通貨別配分



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

※【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

592301

2020年4月10日現在

組入上位ファンドの概要

三菱UFJ リートマザーファンド2004

基準価額の推移

2019年4月10日～2020年4月10日



1万口当たりの費用明細

2019年4月11日～2020年4月10日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a) 売買委託手数料 (投資信託証券)	14 (14)	0.043 (0.043)
(b) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合計	14	0.043

期中の平均基準価額は、33,654円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：54銘柄)

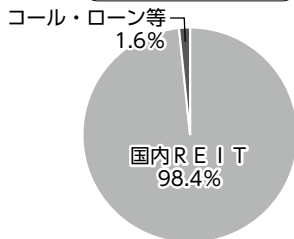
順位	銘柄	種類	国	業種/種別	比率(%)
1	ジャパンリアルエステイト投資法人	REIT	日本	不動産	8.0
2	日本ビルファンド投資法人	REIT	日本	不動産	7.9
3	野村不動産マスターファンド投資法人	REIT	日本	不動産	5.5
4	日本プロロジスリート投資法人	REIT	日本	不動産	5.3
5	大和ハウスリート投資法人	REIT	日本	不動産	4.8
6	アドバンス・レジデンス投資法人	REIT	日本	不動産	4.2
7	GLP投資法人	REIT	日本	不動産	3.5
8	日本アコモデーションファンド投資法人	REIT	日本	不動産	3.1
9	オリックス不動産投資法人	REIT	日本	不動産	3.1
10	森ヒルズリート投資法人	REIT	日本	不動産	3.0

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

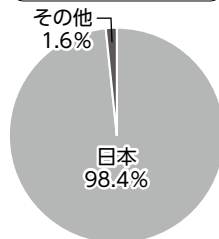
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

種別構成等

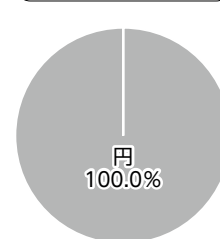
資産別配分



国別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

指数に関して

▶ ファンドの参考指数である『東証REIT指数（配当込み）』について

東証REIT指数（配当込み）とは、東京証券取引所に上場している不動産投資信託全銘柄を対象として算出した東証REIT指数に、分配金支払いによる権利落ちの修正を加えた指数です。東証REIT指数の商標に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は東証REIT指数の内容の変更、公表の停止または商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。東京証券取引所は東証REIT指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対して、責任を負いません。

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

● 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

● MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

● MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

● NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

● FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

● JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJ国際投信